

### (3) 身体拘束廃止に有効だった介護の工夫(主なもの)

質問11-(1) 自由筆記欄(身体拘束を廃止する場合に有効だった介護の工夫)で回答をいただいた中から主な取組内容のみ掲載させていただきました。

「身体拘束ゼロへの手引き」(厚生労働省)の『具体的な行為ごとの工夫のポイント』も取組導入の際の参考になりますので、ご活用ください。

具体的な行為 (手法、目的)	取組の内容(主なもの)
徘徊防止	徘徊には、職員が1対1で付き添う。
ベッド柵 転落防止	布団、たたみ対応
ベッド柵 転落防止	ベッド上での動きが不安定な方へベッドを2台つけてキングサイズにしてやすん でいただいた。
ベッド柵 転落防止	ベッド横にマットやクッションを敷き、最低床にすることで、ベッドから落ちて も、ケガ予防になるようにした。
ベッド柵 転落防止	おちつける環境作りやたとえベットから落ちて外傷のないようマットをしたり 低床にしたりと、本人・家族と話をしながら進めています。
ベッド柵 転落防止	柵にマットや保護できるカバー・転落防止マットを活用している。
ベッド柵 転落防止	柵をするとかえって大事故につながるという事を職員に周知した。
ベッド柵 転落防止	サービスステーション近くの居室に変更し、見守りの徹底
迷惑行為防止	個室対応
迷惑行為防止	外に連れ出し散歩等で気持ちを、かえてもらい昼間行動面を多くし、夜寝ていた だく。
迷惑行為防止	居室で1対1になり、その方の訴えを聞く。聞いた上で他のお客様に危険がおよぶ ような行為はしてはいけない旨を伝える。フローアでは騒がしくて雑音が聞こえる ため、静かな所がいい。しばらく2人で居室で過ごす。
チューブ抜去 防止・ミトン	体動の観察を行い危険性がないことを確認した上で、拘束を解除した。
チューブ抜去 防止・ミトン	つかむと離さないクセのある行動があるので、タオルをつかんで貰う事でミトン使 用を解除。
チューブ抜去 防止・ミトン	経管栄養のチューブが目につかないよう工夫し、雑誌等他に興味をもってもらうよ うにする。又、口から食べれるよう取り組みを行った。
チューブ抜去 防止・ミトン	見守り強化
チューブ抜去 防止・ミトン	チューブの固定位置を変える
チューブ抜去 防止・ミトン	目の届くところにいていただいて、軟膏塗布(かゆみ止め)して、バスタオルを手 に持ってもらい、たたんだり、広げたり手遊びをするように意識づけていって、注 意をそらす
チューブ抜去 防止・ミトン	軍手の手袋を代替として使用、経過を見てそれも除去した。
チューブ抜去 防止・ミトン	職員が見守りの出来る時間にリクライニングチェアを使用し、離床して頂き、見守 りの出来る場所で、点滴注入を行う。
チューブ抜去 防止・ミトン	自己抜去困難な部位への針留置、ルート位置の工夫、胃瘻増設の検討、経口摂取へ の取組
チューブ抜去 防止・ミトン	経管栄養の方を1ヶ所に集めて抜去しないように職員が見守ることにした。
チューブ抜去 防止・ミトン	クッションなどを抱えてもらう。きき手に小さな物を持たせる。経管栄養投入中は、 職員が見守りをするなどしてミトンをはずす工夫をした。

チューブ抜去防止・ミトン	皮膚のかゆみには、適切な軟膏を使用してかゆみを抑える
Y字ベルト等	車イスを使用するのを止め、クッション、リクライニングの活用。イス対応に変更。
Y字ベルト等	スタッフが側にいられる時は外す。時間ではずせる時間をつくる。他に座位を取っていただける椅子、ソファ等の工夫をした。
Y字ベルト等	他に座位を取っていただける椅子、ソファ等の工夫をした。
Y字ベルト等	前屈になりやすい人に、テイルト型車いすを使用、見守りできない時のみ座面を傾ける。
Y字ベルト等	利用者様の24時間シートを作成し、いつどのような時に立ち上るのかをユニット内職員で共有し、見守りを強化した。
Y字ベルト等	デイルーム内での見守り用職員を配置し、絶対その場を離れないルールを作った。その結果、現在も車イス用ベルトを使用しない状態を継続できている。
Y字ベルト等	日中は車イスから降り、畳コーナーで過ごしていただいている。
Y字ベルト等	車椅子からのずれ落ちは、適切な車椅子の検討をリハビリ職員と共に検討する。椅子からのずれ落ちは、椅子の幅や高さ調整し、必要時足台を使用する。立ち上がりには車椅子のセンサーを使用し、早期発見に努める。ワンフロア毎に1人移乗の見守り職員を配置、その職員がその場を離れる場合は、必ず他職員に声掛けし交代してから離れる。
Y字ベルト等	休息の時間を設け、姿勢が保持できなくなったら臥床した。
Y字ベルト等	会議中に職員を車イスにY字ベルトをして立てない様にして、1時間程体験してもらった。
立ち上がり転倒防止	もっと筋力をつける為運動強化
立ち上がり転倒防止	日中、歩行訓練・散歩介助等を多く行う事で、立ち上がりが減少。
立ち上がり転倒防止	本人の生活歴の中から趣味となる事や、集中できる楽しみのある生活を送っていただけよう対応した
立ち上がり転倒防止	立位不安定の利用者をほとんど車椅子安全キーパーを使用して見守っていたが、それが、誤解であり立位不安定という理由だけで車椅子安全キーパーを使用しないようにしたら、別に事故がふえたのではなくむしろ利用者をよく観察するようになり、事故は少なくなった部分もある。
立ち上がり転倒防止	立ち上がり能力のある人が立ち上がった場合は、立ち上がりを妨げないで、立位保持を介助し、本人が座る気持ちになったら座るように声掛けする
立ち上がり転倒防止	イスや車イスからの立ち上がりがある(転倒のリスクのある)利用者様に対して危ないからとムリヤリ座らせるのではなく、職員が付き添い若しくは手引き歩行にて落ち着かれるまで一緒に歩く。
立ち上がり転倒防止	個別ケア・外気浴 散歩 気分転換 排泄リズムを知り、トイレ誘導
立ち上がり転倒防止	歩行訓練、リハビリを行うことで、転倒しない脚力をつくる。家具の配置を工夫し、居室内は伝い歩きができるようにする。
立ち上がり転倒防止	車イス乗車のみでなく、ソファー・グリーンマット等に移動させる。
立ち上がり転倒防止	転倒時に予測される家具等の配置の変更、家具へのクッション保護等の対策
つなぎ服	ムレない製品の使用、紙オムツ、紙パンツの使用→布へ
つなぎ服	1時間に1回の排泄介助
つなぎ服	おむついじりがあるからと拘束着を着ていた方へは、おむつ交換の回数を増やす。毎回陰部洗浄を行う。

つなぎ服	オムツ外しには、陰洗等を行い常に清潔を保ち、不快感を軽減する。掻痒感ある場合はかゆみをとる。何時にオムツ交換が必要なのか、使用しているオムツやパットが適切か、寝具は寝やすいか等原因を除去していく。夜間不眠によるオムツはずしの場合は日中の覚醒状態を良くし、夜間の睡眠をうながしていく。
つなぎ服	排泄パターンを調査、知る事でその方が排泄後快適に過ごせるようおむつ等の交換をしていく。
つなぎ服	介護衣利用廃止の為、3年前より、入院より3日間排尿状況（時間、量、訴え）をチェック表に記入し、トイレ誘導のタイミング、オムツの大きさ交換時間を評価し排尿介助計画を立て評価とくり返した。
過剰な投薬	見守りのため、スタッフルーム前の居室への移動及び落ちつかない時には、スタッフルームにて職員と一緒に過ごしてもらう。
過剰な投薬	机の配置の方法、気にならない方向で座ってもらう等、グループの分け方を検討。
過剰な投薬	日中の過ごし方の再度確認（アセスメント）
過剰な投薬	知識をつける。 ・何故、その行動になるのか？変化はいつから起きているのか。薬、医療と連携をはかる。